

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林研究費

事業名 県産大径材利用拡大プロジェクト事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

森林研究所 電話番号：0575-33-2585

E-mail：c25108@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,986千円（前年度予算額：4,986千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,986	2,383	0	0	0	0	0	0	2,603
要求額	4,986	2,318	0	0	0	0	0	0	2,668
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

森林資源はスギ、ヒノキともに大径化しているが、大径化した原木の需要が少ないことが大きな問題である。大径材は今後益々増加するため、大径材の利用促進を図ることが急務である。そこで、地域の企業などと一体となったネットワーク型の研究体制で、大径材の加工技術開発や新たな魅力ある製品開発を行う、県の将来を見据えた戦略的に取り組むべき先行投資的研究である。

(2) 事業内容

研究課題

「県産大径材のA材利用の拡大に向けた製品・技術開発（R2～6）」

大径材の特性を生かした強度性能の高い長尺接着重ね梁の開発を行うとともに、今後の需要の増加が見込まれる心去り平角材の強度性能評価及び人工乾燥方法など加工工程の技術開発を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

試験研究には試行錯誤が伴い、取り組んでも必ず成果が出るとは限らないなどリスクも大きいため、民間が自ら試験研究を実施することは困難である。よって、県が主体となって試験研究に取り組む必要がある。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	350	職員旅費（調査、打合せ、情報収集）
需用費	844	試験や調査のための消耗品の購入
委託料	3,000	重ね梁製造委託
備品購入費	792	恒温水槽、定温乾燥機
合計	4,986	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ 第3期岐阜県森林づくり基本計画
- ・ 岐阜県林政部研究推進方針に基づいた森林研究所推進計画（H29～R3年度）

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
「第3期岐阜県森林づくり基本計画」及び「森林研究所推進計画（H29～R3年度）」に沿って、①健全で豊かな森林づくりの推進、②林業及び木材産業の振興、③人づくり及び仕組みづくりの推進を柱に、県民・産業界のニーズに応える研究開発を進める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
製品・技術開発	— (R)	(R)	(R)	(R)	10件 (R2～6)	%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- 低コストで高い強度性能を持つ長尺接着重ね梁を開発するため、材料の段階での動的ヤング係数を調査した。
- 心去り平角材の強度性能評価を行った。

（前年度の成果）

- 丸太段階の密度及び動的ヤング係数を調査するとともに、製材後の重ね梁エレメントの密度、含水率、動的ヤング係数を調査し、これらの関係を明らかにした。また、製材方法の違いによる動的ヤング係数の影響を調査した。
- 原木ヤング係数と心去り平角強度（ヤング係数、曲げ強さ）を測定し、これらの関係を明らかにした。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	今後益々増加する大径材の加工技術開発や新たな魅力ある製品開発は、大径材の利用促進につながり、地域経済の活性化に貢献するため、事業の必要性は高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	開発する接着重ね梁は安価な設備や装置で製造できるため、県内の多くの中小企業でも製造可能である。研究内容や成果は、研究成果発表会や県内製造業者などが集まる研修会で積極的に発信している。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価) ○	研究課題の計画書や進捗状況を所内で定期的に聞き取りし、軌道修正及び効率化を図っている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 今後益々増加する大径材の加工技術開発や新たな魅力ある製品開発が必要である。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 企業・団体からの相談・要望から得られたニーズに基づき、研究課題の方向性を修正していく必要がある。
